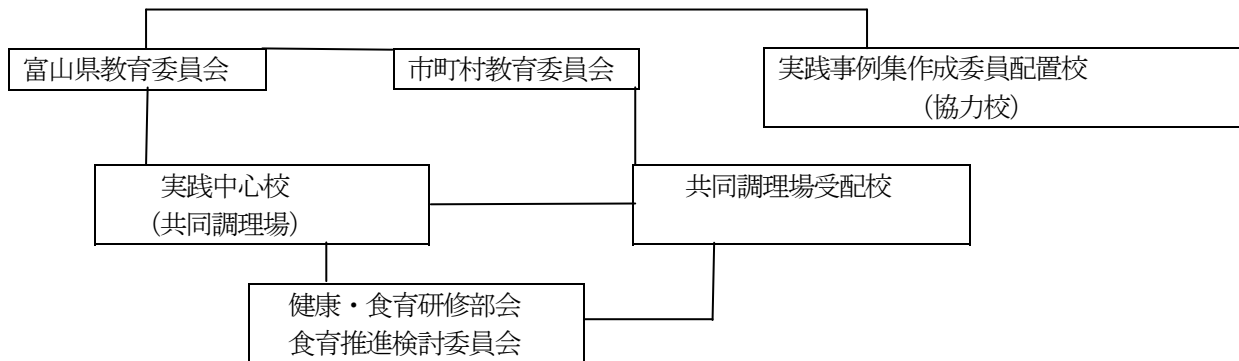


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	富山県
推進地域名	氷見市、小矢部市、 射水市、朝日町

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

### テーマ1 子どもの望ましい食習慣を形成するための方策

#### 1 食に関する指導の推進—栄養教諭の積極的な参加を促す—（全推進地域）

各推進地域において食に関する指導の全体計画を作成するとともに、栄養教諭が参加可能な教科、単元名を一覧にし、栄養教諭の食に関する指導への積極的な参加を促した。家庭科「ごはんのみそ汁」の学習では、単元全般を通じて継続的に指導に携わることができた。

各地域での栄養教諭を中心とした取組は、カラー写真を豊富に活用した「食育だより」や「実践事例集」としてまとめ、成果を共有するとともに県下に普及した。

#### 2 食生活等に関する実態調査を生かす（全推進地域）

とやまゲンキッズ作戦（富山県独自の実態調査）を活用して実態把握を行い、小矢部市では、結果を分析して各推進地域の指導に生かした。朝食欠食率は、年々下がってきているものの、特に今年度は、朝食の内容（栄養バランス）について啓発を図っていくことが重要であるとの共通理解を図った。

この他、各推進地域ごとに実践に合わせた独自の実態調査を行い、その結果を基に効果的な手立てを講じて取り組むことができた。

#### 3 「毎日しっかり朝ごはん」事業（県農林水産部、県教委企画）に取り組む（射水市、小矢部市）

小矢部市では、児童の実態調査を基に、朝ごはんの大切さを啓発する「ランチョンマット」を作成・配布し、朝食の大切さや栄養バランスについて啓発した。また、保護者参観の授業や親子調理教室等でも活用した。

射水市では、「毎日しっかり朝ごはんウィーク」（強化週間）を設定し、家庭での積極的な取組を促した。

<朝ごはんの大切さを啓発する「ランチョンマット」>

<保護者の感想>



- ・ 栄養バランスを意識するのに役立った88%
- ・ 主菜や副菜を意識するようになった。もう1品増やそうと心がけるようになった。
- ・ 箸の持ち方など、食事のマナーにも気をつけたいと思った。
- ・ 何が不足しているのかが目立つし、すぐ分かる。
- ・ 野菜不足が実感できた。気をつけたい。
- ・ 子どもから「このおかずは何色？」などいろいろな聞かれ、食事での親子のコミュニケーションが増えた。…等

1 「学校給食とやまの日」や「学校給食週間における」地場産物の活用（全地域）

地場産食材を活用した献立を実施する「学校給食とやまの日」を設けた。その地域ならではの工夫された楽しい給食により、児童が地域の食材への興味・関心を高めたり、地域への愛着を深めたりする契機となった。

氷見市では、「富山のうまいもんめぐり」というテーマのもと、市内の全児童が、氷見の寒ぶりの塩焼きや氷見カレー、地元産の稲積梅等を味わい、地域の食文化に親しんだ。

2 親子学校給食サポート隊、子ども農業体験等、地場産物と触れ合う体験活動の実施（射水市、小矢部市、朝日町）

給食で使われる食材が、どこでどのように作られているのかを知る機会ほとんどない。小矢部市では、親子を対象に、農産物を納めている地元生産者の力を借りて、給食の食材（地場産物）を栽培して収穫し、学校給食に納めるまでを体験した。（年間数回に分けて実施）

射水市や朝日町では、子ども農業体験活動として米作りや地場産野菜作りなど、継続して栽培活動を行った。収穫の喜びを味わうだけでなく、収穫物や地元の農産物を使って調理体験を行うことにより、楽しみながら自然の恵みを感じたり、生産者への感謝の気持ちを深めたりすることができた。給食センターの職員やJA職員、地元農家との連携を図りながら、回を重ねて実施し、地域とのふれあいを深めた。

<親子でブドウの袋かけ>



<カブ畑作りとたねまき>



3 地域の食文化に親しむ体験活動（氷見市）

比美乃江小学校（氷見市）では、地域人材や地場産物を活用し、年間を通して地域の食文化に親しむ活動を行った。

- ・みりん干し体験学習（3年）
- ・氷見カレー教室（6年）
- ・米作り体験学習（5年）
- ・稲積梅体験学習（4年）
- ・いかめし体験学習（5年）
- ・氷見ぶりを味わう会（全校）等



<地元食材への思いに触れる>

<稲積梅体験学習>

氷見カレー学会会長D氏を招いての講演「地元の特産物を生かした料理への思い」や、地元氷見牛やいわしの粉を使った「氷見カレー」の調理体験、水産漁港課や地域の板前等との連携を図り、氷見ぶりを味わうなど、地域の人材と連携して、地場産物を活用することにより、身近な人のすばらしさや地域の食文化に触れることができた。

4 地場産物を活用した「料理教室」（全地域）

地元食材を使った料理教室を開催し、生産者の方々、食生活改善推進員等と触れ合うことにより、地場産物

に対する興味関心を高め、食材に対する思いを知り、感謝の心を深めることができた。

## 5 地場産食材の生産者とのふれあい給食・交流会食（全地域）

地元食材の生産者を招き、交流会食を行った。小杉小学校（射水市）では、キャベツやブロッコリー等の生産者を招いて、社会科「地元でとれる食材」の学習を行うとともに、実際に給食でおいしく味わった。

### テーマ3 家庭や地域と連携した食育推進のための方策

#### 1 地域の人材を生かした「親子料理教室」を開催する（射水市）

小杉小学校（射水市）では、地元食材を使って「簡単にできる朝食」というテーマで「PTA親子料理教室」を行った。

地域の食生活改善推進員等の参加・協力を得て、親子で地元食材を使った朝食レシピに挑戦した。

参加者からは、「地域の食材のよさに気づいた」「家庭でも食事作りに力を入れたい」「食生活改善推進員さんから知恵を学んだ」等の感想が寄せられた。

- ・ レシピが朝食の参考になった。地元食材をもっと使ってみよう。
- ・ 親子で調理を楽しめて思い出に残った。
- ・ 異学年の子どもたちと協力することができた。
- ・ 親子で食事について話し合うようになった。 <感想より>



<親子で調理>

#### 2 地域の団体と連携して食育を推進する（氷見市、小矢部市）

比美乃江小学校（氷見市）では、地域の団体や流通業者、JA等と連携して、地域の食材をテーマにした総合的な学習の時間等に取り組んだ。テーマ：稲積梅、みりん干し、ハトムギ、米作り、イカめし、地域食文化等



収穫の喜びを味わうとともに、生産に携わっている地域の方々や自然の恵みに感謝の気持ちを深めることができた。また、これらの活動は、学習発表会や保護者参観等で地域に発信し、地元食材のよさを広めた。

<<学習発表会等で  
地域に発信>

<PTA食育講演会>



#### 3 保護者への啓発を図る食育講演会・学校保健委員会 （全推進地域）

さみさと小学校（朝日町）では、授業参観後に食育講演会を行った。保護者の感想からは、食育の大切さを痛感したこと、楽しく食事をすることの重要性など、親としての「食」へのかかわり方を改めて学び、意欲を高めたようであった。また、「食」をテーマにした学校保健委員会が開催され、子どもたちの望ましい食習慣について、関係者が話し合い、校区をあげて取り組んでいこうとする気運が高まった。

#### 4 朝食レシピの募集や普及（全地域）

「我が家の自慢料理」や「朝食メニュー」等のレシピを募集し、学習発表会で展示したり、食育だよりに掲載したりして、家庭や地域への啓発を図った。

## テーマ1～3に共通する具体的計画

### 1 各地域の取組を「食育だより」や「実践事例集」にまとめて発行する（全地域）

各推進地域の取組をまとめ、地域ごとに「食育だより」（カラー印刷）を発行し、活動を広めるとともに、啓発を図った。また、栄養教諭が中核となって進めた食に関する指導を、「実践事例集」としてまとめ、県内に普及した。

### 2 「学校給食とやまの日」の実施（全地域）

食育月間中に、地場産食材を使った献立を実施する「学校給食とやまの日」を設けた。その地域ならではの食材を生かした楽しい給食により、児童が地域の食材への興味・関心を高めたり、地域への愛着を深めたりする契機となった。

### 3 「食育推進検討委員会」や研修会の実施（全地域）

食育推進検討委員会では、推進地域の担当者が集まり、趣旨や予算、活動内容等について共通理解を図った。また、推進地域の栄養教諭が集まり、活動内容や進捗状況等について話し合う場を設けた。取組について情報交換する中で、互いに刺激し合い、実践意欲を高めることができた。

## 数字で変化のあった事項について

### ●テーマ1：子どもの望ましい食習慣を形成するための方策

「とやまゲンキッズ作戦」（富山県独自の実態調査より児童・生徒の食習慣に関して：「はい」の％比較）

#### <正しいはしの持ち方で食事をしている>

比美乃江小（氷見市）	6月%	12月%
	43.9%	48.8%（↑4.9）
石動小（小矢部市）	5月%	11月%
	34.0%	43.0%（↑9.0）
小杉小（射水市）	1学期%	2学期%
	53.4%	57.2%（↑3.8）
さみさと小（朝日町）	4月%	12月%
	48.0%	69.2%（↑21.2）

#### <朝ごはんを食べている>

比美乃江小（氷見市）	6月%	12月%
	93.0%	94.0%（↑1.0）
石動小（小矢部市）	5月%	11月%
	95.0%	95.4%（↑0.4）
小杉小（射水市）	1学期%	2学期%
	94.0%	94.7%（↑0.7）
さみさと小（朝日町）	4月%	12月%
	92.5%	90.8%（△1.7）

#### <食事はよくかんで食べている>

比美乃江小（氷見市）	6月%	12月%
	66.2%	68.4%（↑2.2）
石動小（小矢部市）	5月%	11月%
	71.7%	80.0%（↑8.3）
小杉小（射水市）	1学期%	2学期%
	73.0%	73.5%（↑0.5）
さみさと小（朝日町）	4月%	12月%
	62.0%	71.2%（↑9.2）

#### <好き嫌いしないでいろいろなものを食べている>

比美乃江小（氷見市）	6月%	12月%
	36.5%	43.4%（↑6.9）
石動小（小矢部市）	5月	11月
	46.0%	51.8%（↑5.8）
小杉小（射水市）	1学期%	2学期%
	43.6%	50.9%（↑7.3）
さみさと小（朝日町）	4月%	12月%
	43.6%	40.5%（△3.1）

●テーマ2：地場産物の活用やその体制を整備するための方策 <給食残食調査より> (単位%)

さみさと小 (朝日町)	6/14～18	11/15～19
主食	6.4	2.2
牛乳	0.4	0.0
主菜	1.6	0.2
副菜	6.8	3.4
汁物	5.2	2.4
デザートなど	1.6	0.0

<比較> 副菜：6.8%→3.4%  
 主食：6.4%→2.2%  
 汁物：5.2%→2.4%  
 これらは、いずれも50%以上の大幅な残食量の減少がみられた。

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

<テーマ1—子どもの望ましい食習慣を形成するための方策—>

- ・それぞれの地域で、食生活に関する「とやまゲンキッズ作戦」(富山県独自の実態調査)を行い、その結果を基に、目の前の児童生徒の実態を明らかにして、それぞれに応じた手立てを講じて取り組むことにより、その地域ならではの取組が展開され、指導の効果を上げることができた。
- ・栄養教諭が積極的に授業にかかわることにより、食に関する豊富な実践が展開された。児童生徒の食に対する意識が高まり、数値の変化からも望ましい食習慣が身に付いていったと考えられる。
- ・担任と連携して授業を行う中で、栄養教諭の資質向上が図られた。また、実践を積み重ねることにより、食に関する指導の全体計画がよりよいものへと見直されていった。
- ・中央研修の伝達講習やワークショップを取り入れた研修会等、栄養教諭対象の研修会を充実させることにより、取組への意欲を高めるとともに、研修内容を各地域の実践に生かすことができた。

<テーマ2—地場産物の活用やその体制を整備するための方策—>

- ・「親子学校給食サポート隊」など、地域と触れ合う食農体験活動を積極的に展開することにより、児童生徒や保護者が、地域の食材に親しみながら理解を深め、収穫の喜びを味わい、地域のよさに気づくことができた。
- ・「食育リーダー」や「食生活改善推進員」、地元のシェフ等、地域の人々を積極的に活用していくことにより、地域と連携していく上での体制づくりが促され、食育推進に向けての気運が高まった。
- ・「学校給食とやまの日」等を設け、氷見ぶり、五箇山豆腐、高岡の食育丼、砺波干シナス等、地場産物を積極的に活かした献立を推進することにより、地域の食文化に親しむことができた。

<テーマ3—家庭や地域と連携した食育推進のための方策—>

- ・地域の人材を巻き込んで活動することにより、学校と地域との連携が図られ、協力体制が構築されるとともに、地域をあげて食育を推進していこうとする気運が高まった。
- ・各地域の実践を「食育だより」や「実践事例集」としてまとめ、保護者や地域へ発信したり、親子で「朝食レシピ集」を作成したりすることにより、保護者や地域の人々への食への関心を高めることができた。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

<給食を「生きた教材」として活用し、地道に実践を積み重ねる>

- ・日々の教育活動の中に食育の観点を取り入れ、給食を「生きた教材」として活用しながら地道に継続して取り組んでいくことが大切である。

<栄養教諭の立場や強みを生かす>

- ・単独校勤務の栄養教諭と共同調理場勤務の栄養教諭では、取り組み方や進め方に違いがある。推進地域をグループに分けるなどして、それぞれのよさが生かされるような取組を推進していくことが大切である。

<食育推進検討委員会の持ち方を工夫する>

- ・「食育推進検討委員会」等、保護者や地域の方々に参加していただく場を設けることは大切であるが、学校の過密なスケジュールの中では、日程調整がつきにくく、回を重ねることが容易ではない。学校評議員会やPTAの健康部会、学校保健委員会など、既存の会合を活用していく方法も考えられる。

<本事業の成果を積極的に広める>

- ・配布部数やまとめ方(テーマ別の項目やページ数、カラー印刷等)の工夫を行い、事業報告書を活用しやすいものに精選したり、各地域での取組を研修会で伝えたりして、本事業を各学校へ積極的に広めるための工夫をしていく必要がある。